

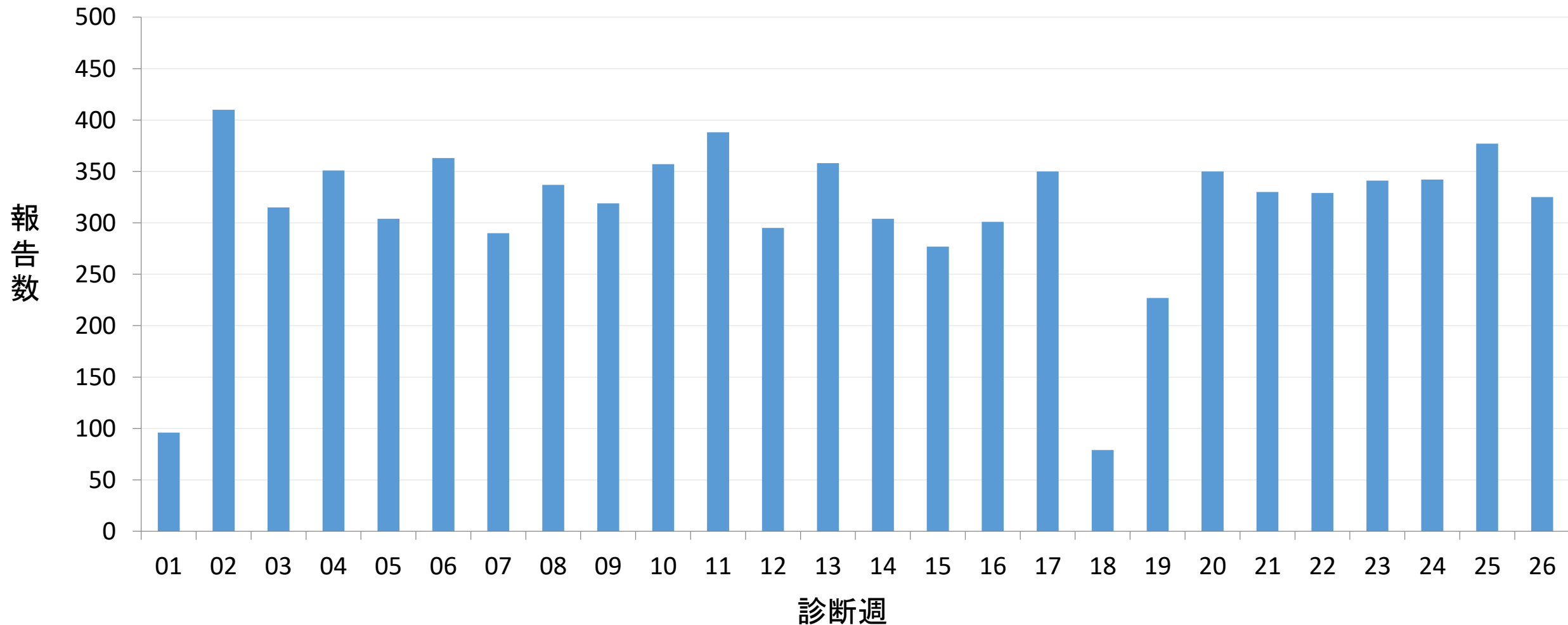
2019年第1週から第26週(*)までにNESID に報告された百日咳患者のまとめ

2019年第26週週報データ集計時点

国立感染症研究所

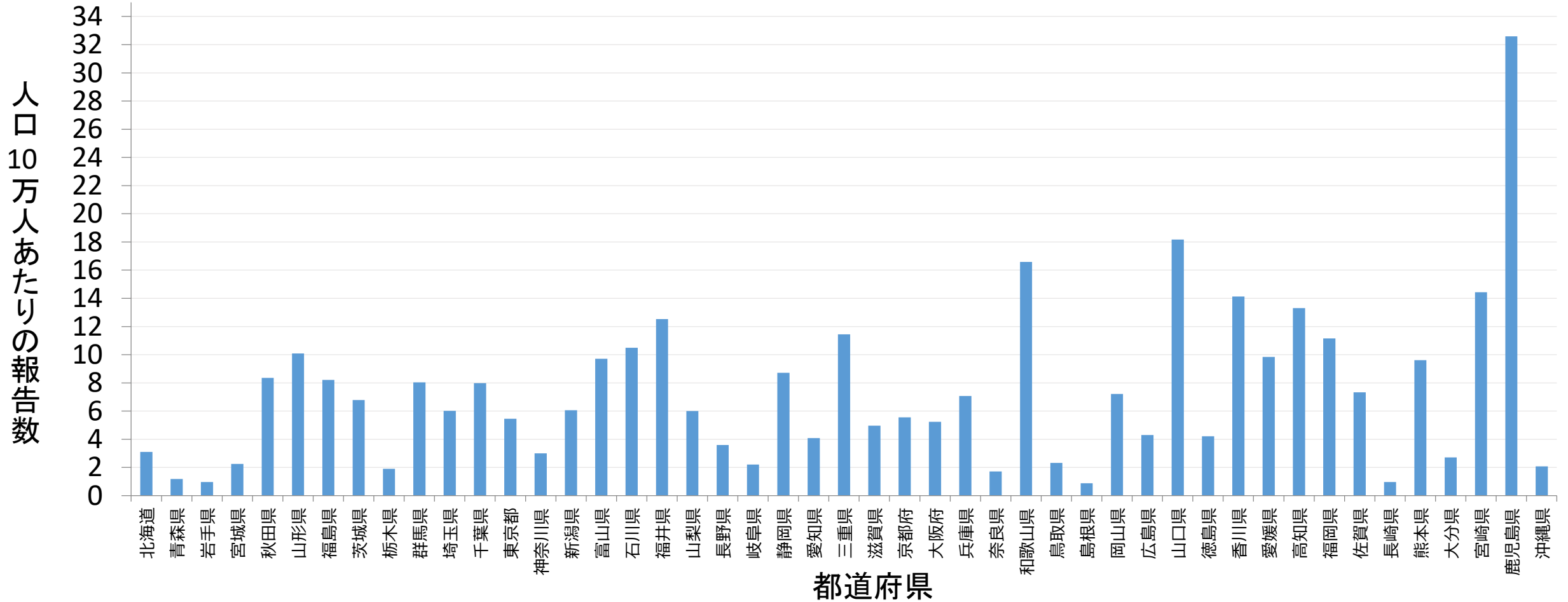
(*)第1週～第26週(2018年12月31日～2019年6月30日)

診断週別全百日咳患者報告数 (2019年第1週～第26週)(n=8,115)

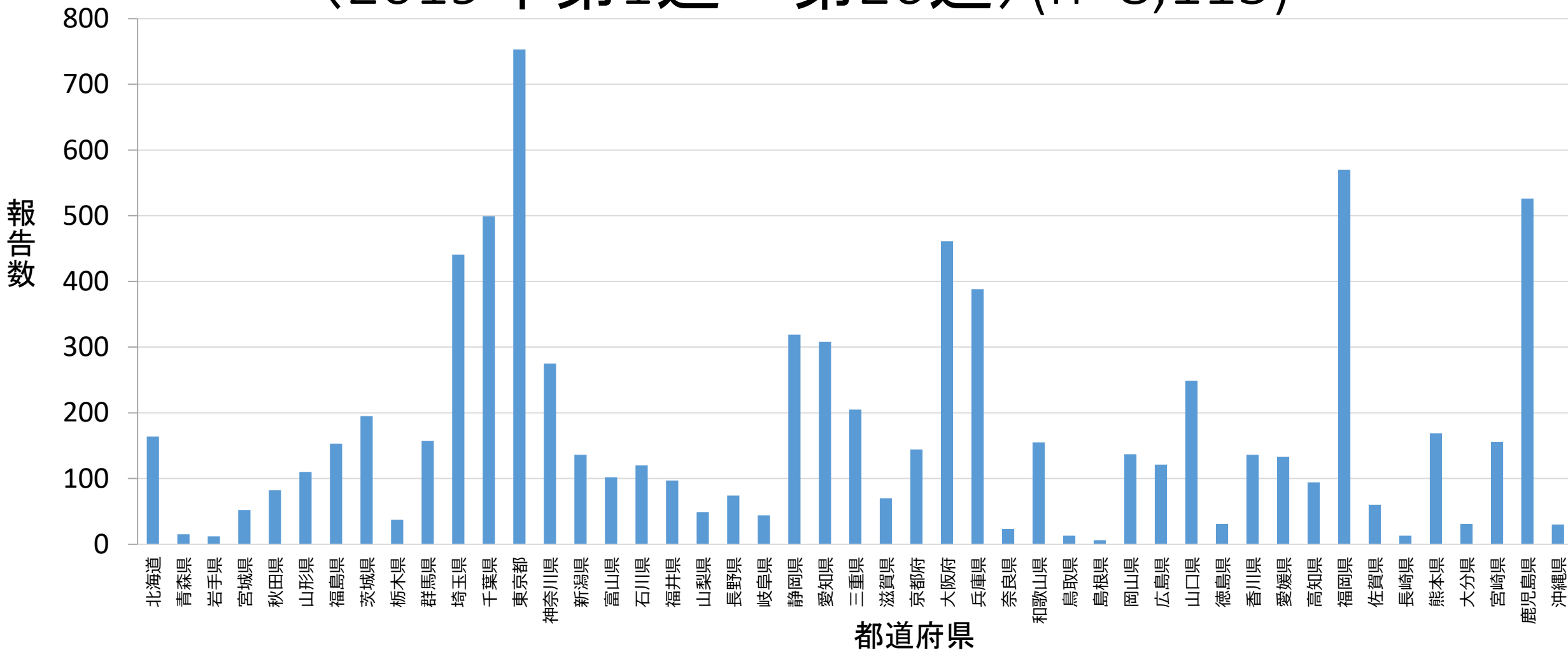


週の平均報告数: 312例(範囲: 79~410例)

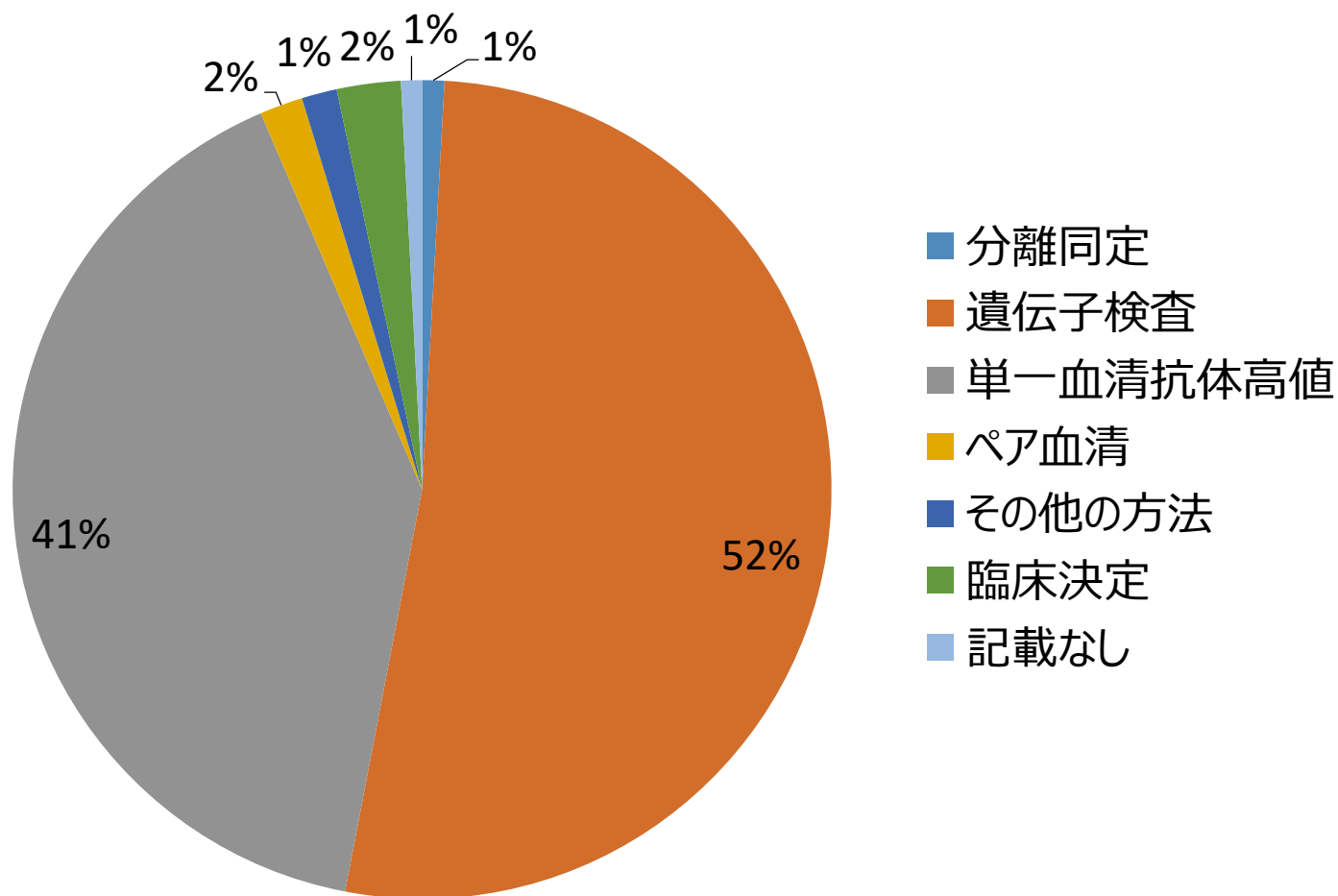
人口10万人あたりの都道府県別百日咳 報告患者数(2019年第1週～第26週)(n=8,115)



都道府県別百日咳報告患者数 (2019年第1週～第26週)(n=8,115)

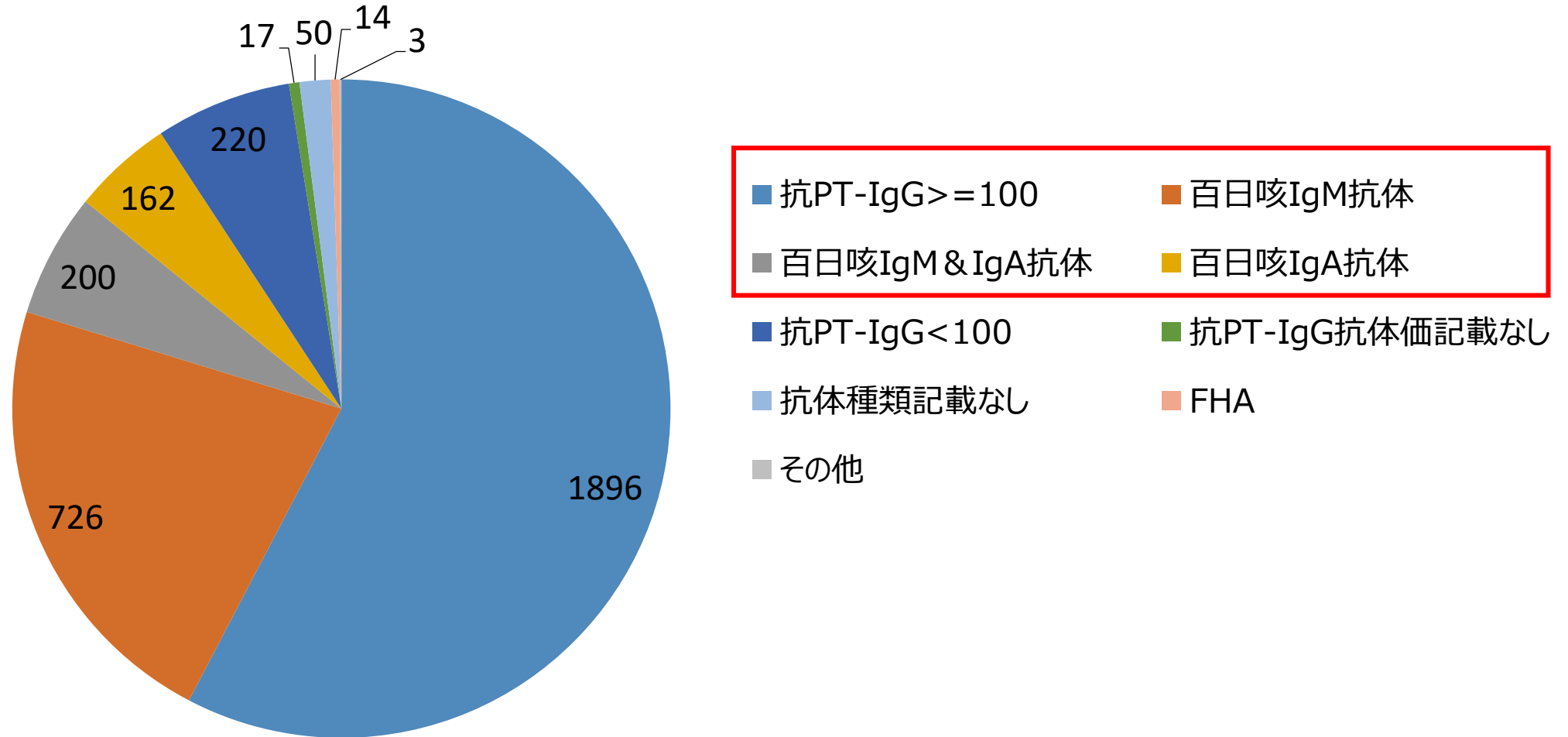


百日咳報告患者の診断方法 (2019年第1週～第26週)(n=8,115)



複数の検査法の記載がある場合、分離同定→遺伝子検査→ペア血清→単一血清抗体価高値の順に一つの診断法を決定
例) 分離同定と単一血清抗体価高値の記載がある場合には、分離同定を診断法とする

「単一血清の抗体価高値」を診断根拠に届けられた百日咳報告患者 (n=3,288) の検査結果内訳

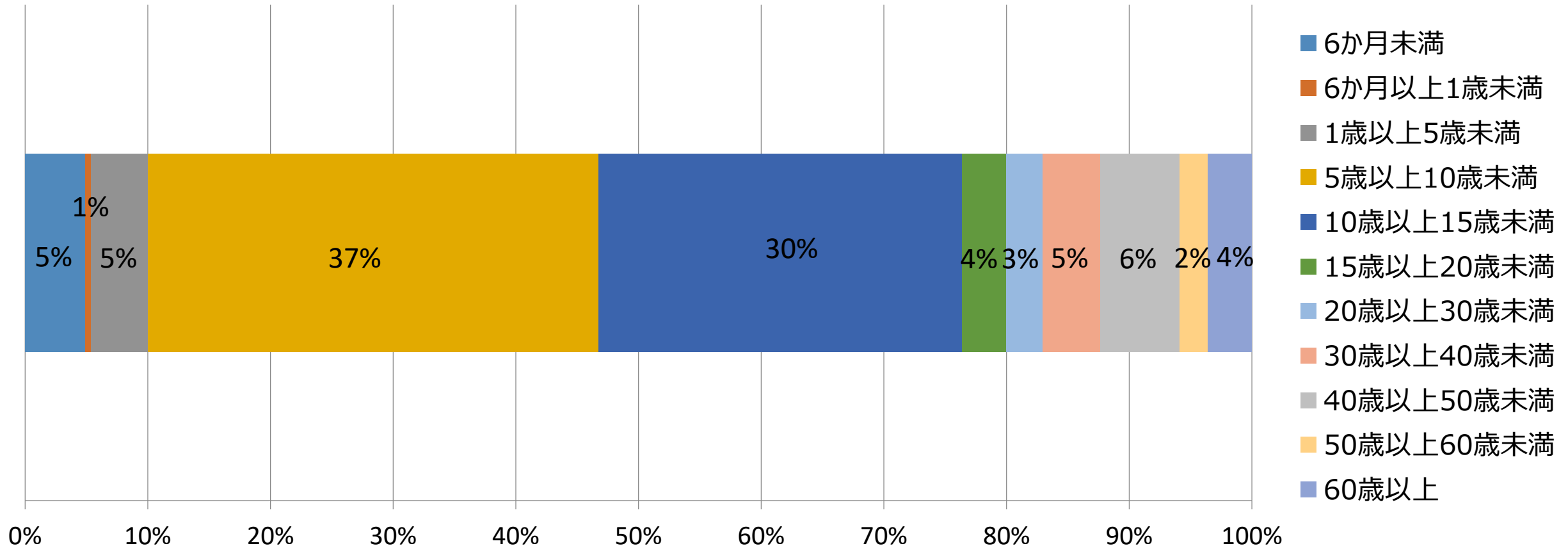


報告の約91%が届出ガイドライン*の診断基準を満たしていた (赤い四角の枠内)

(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

届出ガイドラインの診断基準を満たした 百日咳患者症例^(*) (n=7,611)の各年齢群の割合 (2019年第1週～第26週)

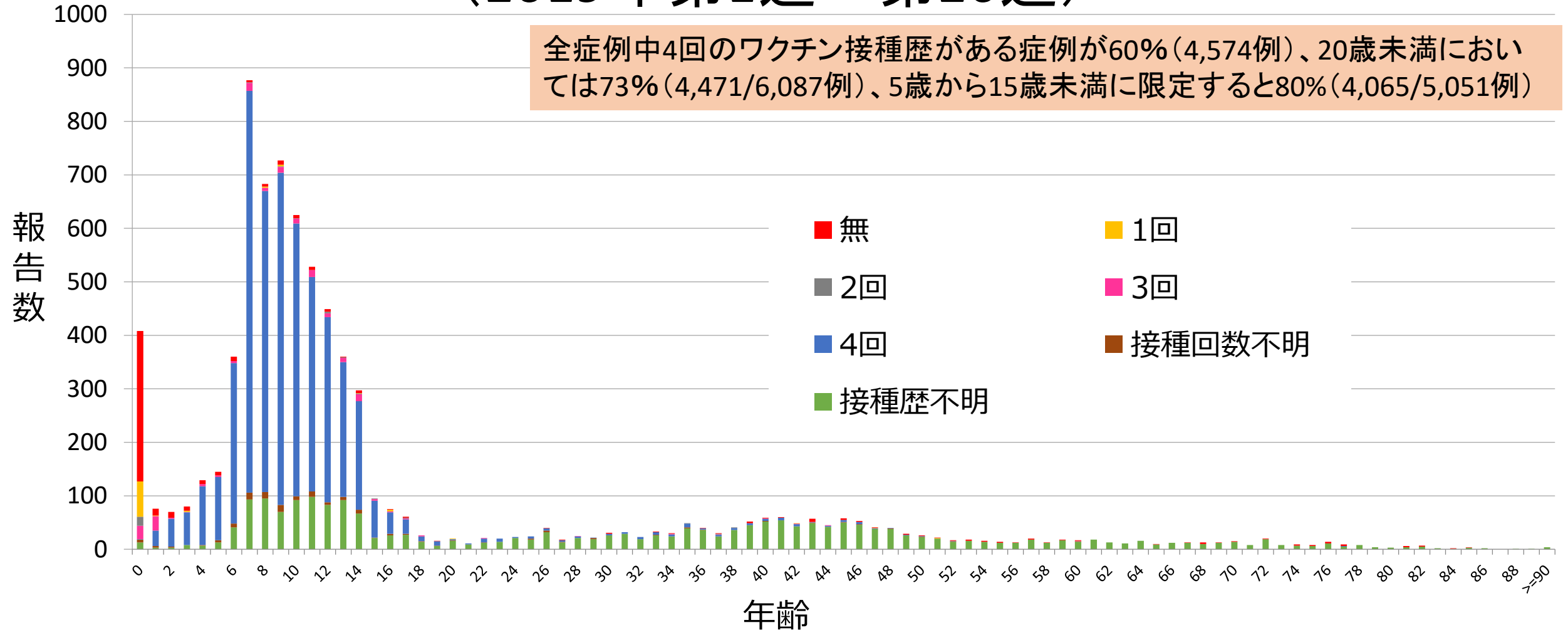


(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者症例^(*) (n=7,611)の年齢分布 (2019年第1週～第26週)

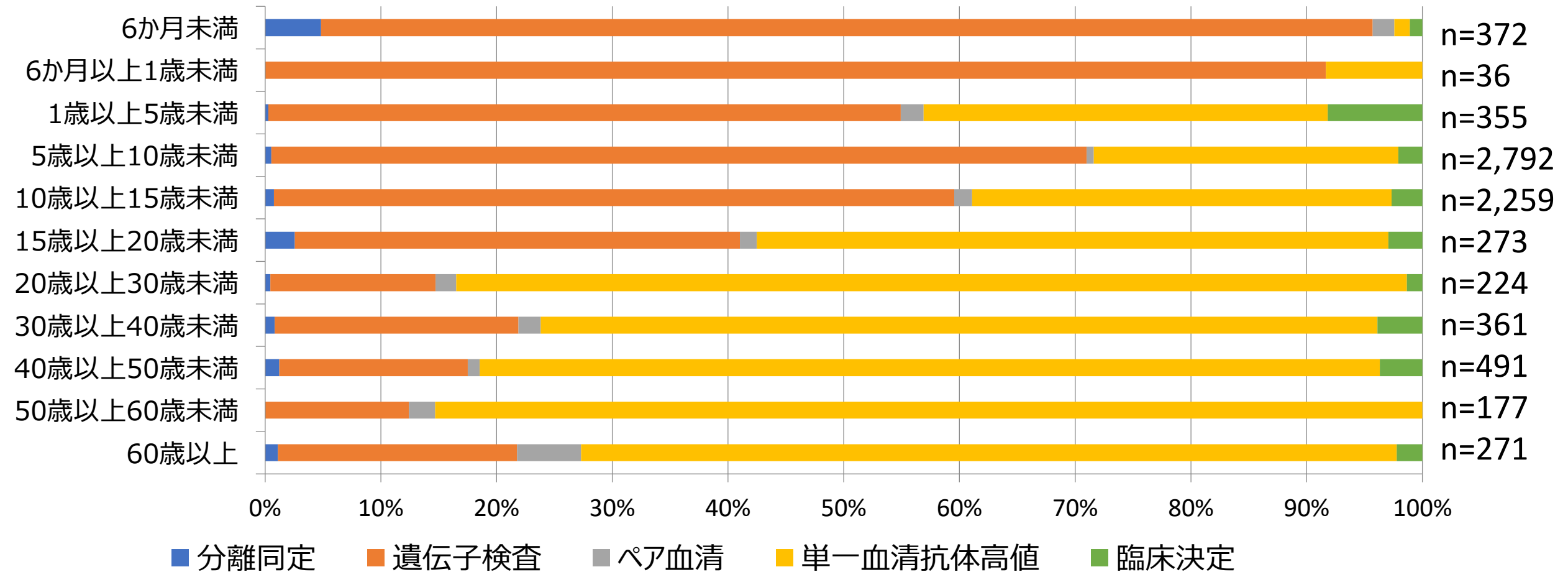
全症例中4回のワクチン接種歴がある症例が60% (4,574例)、20歳未満においては73% (4,471/6,087例)、5歳から15歳未満に限定すると80% (4,065/5,051例)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン (初版) に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

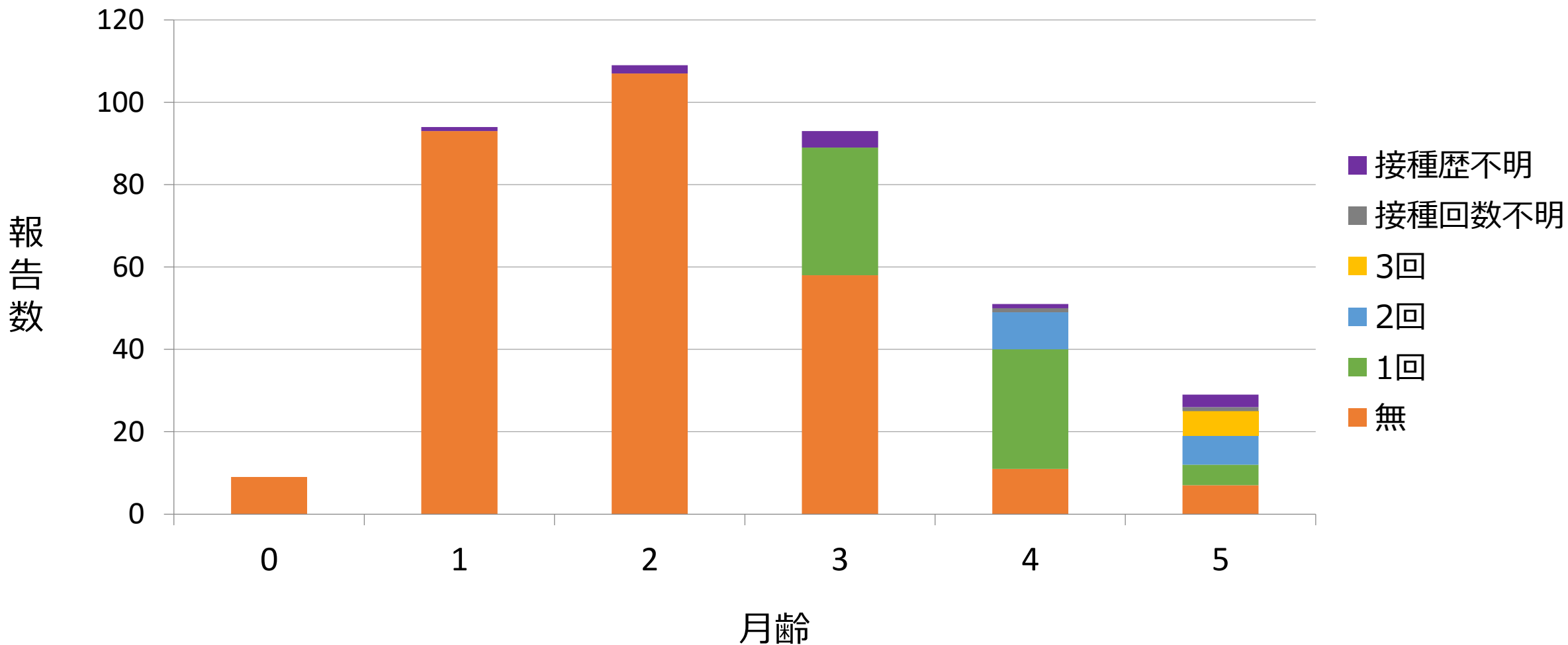
届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳症例(*)の年齢群別百日咳診断検査法の割合 (2019年第1週～第26週) (n=7,611)



(*)百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）に則った症例のみを抽出

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

6か月未満症例の月齢別報告数(ワクチン接種歴別) (2019年第1週～第26週) (n=385)



6か月未満症例の感染経路 (2019年第1週～第26週) (n=385)

推定感染経路	N (重複あり)	%
母親	60	16
父親	72	19
同胞	145	38
祖父母	22	6
家族内その他	15	4

家族内その他の内訳：いとこ(6)、おば(3)、おじ(4)、甥または姪(2)

上記以外：家族内不明 74(19%)、その他 3(1%)、不明 58(15%)

6か月未満症例の臨床症状・臨床経過 (2019年第1週～第26週) (n=385)

●NESID記載の症状

症状	N (重複あり)	%
無呼吸発作	83	22
チアノーゼ	110	29
肺炎	18	5
痙攣	0	0
脳症	0	0

上記以外で報告数が多い上位3症状

持続する咳	330	86
夜間の咳き込み	310	81
スタカート	192	50

今回のまとめ

◆2019年第2四半期時点での百日咳報告患者についてまとめた

- 全報告百日咳患者数 8,115例
- 届出ガイドラインの診断基準を満たした百日咳患者数 7,611例
 - うち4回のDPTワクチン接種歴有の割合 60% (5~15歳未満に限定すると80%)
 - 入院例 130例

◆6か月未満、7歳をピークとした5~15歳、成人では40代に患者集積あり

◆小児ではLAMP法による診断、成人では単一血清抗体価による診断の割合が高いが、2018年と比べて全体的に遺伝子検査の割合が増加

【参考】百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン(初版)

- 感染研のホームページをご覧ください

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/610-disease-based/ha/pertussis/idsc/7994-pertussis-guideline-180425.html>

- 届出ガイドラインは保健所に届け出る基準を示しており、臨床診断を目的としたガイドラインではない
⇒統一した基準で全国の百日咳の疫学情報を収集する目的
- 届出ガイドラインを満たさない百日咳症例(臨床診断例)もあり得る(治療や感染拡大防止策は同じ)